

令和2年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO法人田万川地域サポート21	代表者	齋藤 博英	法人・事業所の特徴	『ぬくもり』では理念をもとに、地域に密着した介護サービスを提供できるよう日々努めています。多様なニーズに対応できる『小規模多機能ホーム』では、利用者様だけでなく地域や家族を支援する福祉活動を続けています。
事業所名	小規模多機能ホームぬくもり	管理者	津守 美江子		

出席者	市町村職員	知見者	地域住民/団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	3人	2人	2人	1人	1人	3人	人	15人

項目	2年度の改善計画	2年度の改善計画に対する取組み・結果	意見	令和3年度改善計画
A. 事業所自己評価の確認	普段から事業所自己評価項目を意識し、業務にあたるのが有意義であるという認識で職員に周知する。	普段の業務を通じて、また月一回の多機能会議を通じて、9項目の初期支援・「～したい」の実現・日常生活の支援・地域での暮らしの支援など…議論の場で確認し、業務に落とし込めるよう努力した。	特になし	普段から事業所自己評価項目を意識し、業務にあたるのが有意義であるという認識で職員に周知する。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き、玄関ホールの季節感のある飾りつけ（雛人形など）やテラスの植込みなどに工夫を凝らし、利用者はもちろんご来訪される家族や地域の方々に豊かな雰囲気味わって頂く。	例年通り、季節の行事に関連する飾りつけや野花を玄関や居間、廊下等に活け、ご利用者が季節感を感じ、ぬくもりに来るのを楽しみにされ、癒しになるよう心掛けています。	特になし	コロナの感染予防策を講じるとともに、施設の環境衛生と季節感を感じる配慮を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	普段からの情報収集や地域関係の各種会議への参加、たまらば等による地域ニーズをくみ上げ、地域の事業所としてできることを取り組んでいく。	今年度はぬくもり内のコロナ感染予防やご家族への連絡や協力などの依頼などにエネルギーを使ったことだけでなく、これまでにないレベルで人材不足が長期にわたって続き、運営体制としては大変な一年度であった。出来る限り会議等への参加も含めて、情報収集に努めた。	特になし	コロナ感染予防策を含め、普段から様々なチャンネルを活用し地域の情報収集に努め、当事業所が地域のニーズに柔軟に応じることができるよう取り組む。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者家族の一層の会議への工夫や一般住民の会議への参加方策について引き続き検討する。	コロナにより、これまでの形態の会議や研修等が限定的であったり欠席を余儀なくされたことがあったが、意思疎通については、可能な限り質を落とさないよう努力した。また、ご利用者のご家族や地域の方とは普段から気軽に意思疎通ができる関係性になるよう努めた。地域の心配な方については、萩市に連絡し相談した事案があった。	特になし	利用者様宅の周辺地区の方々とも出来る限りなじみの関係を構築し、利用者様へのよりよいサービス提供に繋げるよう努める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	小規模多機能ホームの利用の現状を委員の皆様にご覧いただき（サービスの強みや課題点なども含む）、サービスに対する意見を聴取し、小規模多機能ホームサービスのより一層の充実を図る。	コロナにより書面による開催があったが、忌憚ないご意見を委員の皆様より頂くことができ、介護の質の向上につなげるきっかけとなった。特にコロナ予防や普段の事故防止等危機管理体制など。	特になし	ぬくもりの普段の様子や現状をできるだけ分かりやすく毎回の運営推進会議にてご報告し、委員の皆様により活発なご意見を募り、小規模多機能の質の向上に繋げる。
F. 事業所の防災・災害対策	防災への対応は福祉関係サービス分野では特に重要であることから、協力的体制整備への協力も含め、前年計画を引き続き継続して行う。	創設以来、計画通りに実施することができた。	特になし	防災対応は、引き続き例年の取組を継続し、年間計画に沿って実施する。